

## 「主な取組」検証票

施策展開	2-(3)-オ	保健衛生の推進		
施策	⑦動物愛護の推進			
(施策の小項目)	—			
主な取組	動物適正飼養普及啓発事業、動物救護事業	実施計画 記載頁	127	
対応する 主な課題	○広く県民の間に動物愛護思想を普及し、動物の適正飼養及び管理に関する知識やモラルの向上を図っていく必要がある。また、犬の飼い主をはじめ、広く県民に対して狂犬病予防に関する普及啓発を強化していく必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	動物愛護思想を普及し、動物の適正飼養、管理(飼い主の責任等)に関する知識やモラルの向上を図るための動物愛護及び狂犬病対策に係る啓発を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	動物愛護及び狂犬病対策に係る啓発					→	県
					成犬譲 渡促進		
担当部課	環境部 自然保護課 (狂犬病対策:保健医療部生活衛生課)						

### 2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
動物適正飼養普及啓発事業 動物救護費事業費	15,679	13,521	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県動物愛護管理推進計画の実施</li> <li>・負傷動物の収容や飼えなくなった犬猫の引取り(293頭)</li> <li>・適正飼養の指導啓発</li> <li>・動物取扱業者等の監視指導(152件)</li> <li>・収容された犬・猫の新たな飼い主への譲渡活動(942頭)</li> <li>・捨て犬・捨て猫防止街頭キャンペーン、動物愛護街頭キャンペーン、動物愛護の集い、動物愛護図画コンクールの実施</li> </ul>	県単等
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捨て犬、捨て猫防止キャンペーン及び「動物愛護の集い」イベントを実施したことにより、捨て犬・捨て猫の防止や動物愛護精神の普及を県民へ周知することができた。</li> <li>・収容された犬・猫に延命の機会を与えるため、動物愛護団体やボランティア等と連携し、新たな飼い主への譲渡活動の強化が図られた(譲渡数942頭)。</li> <li>・動物愛護図画コンクールを実施したことにより、子供達に動物愛護について興味を持たせることができた(応募数801点)。</li> </ul>			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
動物適正飼養普及啓発事業 動物救護事業費	15,787	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県動物愛護管理推進計画の実施</li> <li>・負傷動物の収容や飼えなくなった犬猫の引取り</li> <li>・適正飼養の指導啓発</li> <li>・動物取扱業者等の監視指導</li> <li>・収容された犬・猫の新たな飼い主への譲渡活動</li> <li>・成犬譲渡促進の試行</li> <li>・捨て犬・捨て猫防止街頭キャンペーン、動物愛護街頭キャンペーン、動物愛護の集い、動物愛護図画コンクールの実施</li> </ul>	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①特にノラネコが多い地域で重点的に猫の適正飼養の啓発を行う。</p> <p>②ノラネコによる迷惑行為については、ノラネコの引取り以外の方法による解決を促す。</p>	<p>①特にノラネコが多い地域で重点的に猫の適正飼養の啓発を行った。</p> <p>②ノラネコの引取りの要望がある場合、できるだけ引取りは避けて、迷惑の原因を探ることで状況に応じた改善策を提案した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
犬・猫の収容頭数の推移(狂犬病予防法による犬の捕獲頭数を含む)	5,905頭 (25年)	5,336頭 (26年)	4,392頭 (27年)	↗	—
状況説明	平成28年度は、計画どおり飼い犬猫の安易な引取りの拒否したり、収容された犬・猫の新たな飼い主への譲渡活動を実施する等、順調に進捗しており、犬・猫の合計収容頭数は減少傾向である。引き続き、取組を推進することで、犬・猫の合計収容頭数の減少を図る。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の引き取り施設(動物愛護管理センター)には収容限界がある。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護についての考え方が多様化してきており、ノラネコに対して駆除を望む人も全頭保護を望む人もおり、感情的な対立を生みやすくなっている。</li> <li>・殺処分ゼロを求める社会の要請が近年高まっている。</li> </ul>
--

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・幼少・若年の世代への猫の適正飼養の普及啓発

4 取組の改善案(Action)

・学校訪問時や、動物愛護管理センターでの児童等の受け入れ時を利用して、犬猫の適正飼養の啓発を行う。